

令和3年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立細谷小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和3年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和3年5月27日(木)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第4学年	国語	73人	算数	73人	理科	73人
第5学年	国語	76人	算数	76人	理科	76人

5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。

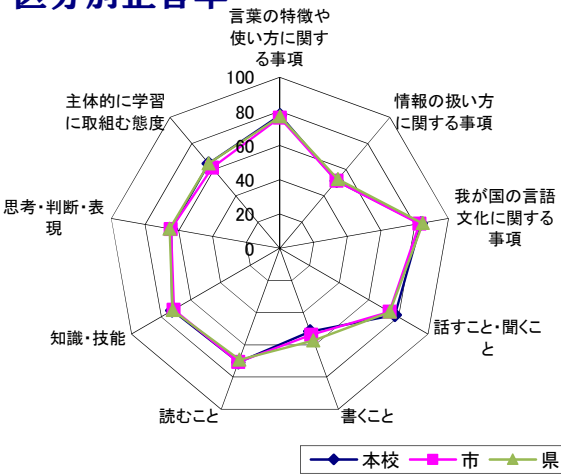
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。

- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立 細谷小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方に関する事項	77.8	76.4	77.0
	情報の扱い方に関する事項	51.6	51.5	52.7
	我が国の言語文化に関する事項	83.6	82.8	84.7
	話すこと・聞くこと	77.6	74.1	74.2
	書くこと	51.6	53.7	57.2
観点	読むこと	70.8	70.7	69.2
	知識・技能	72.6	71.6	72.3
	思考・判断・表現	64.5	64.6	65.4
	主体的に学習に取り組む態度	64.7	61.6	64.7



★指導の工夫と改善

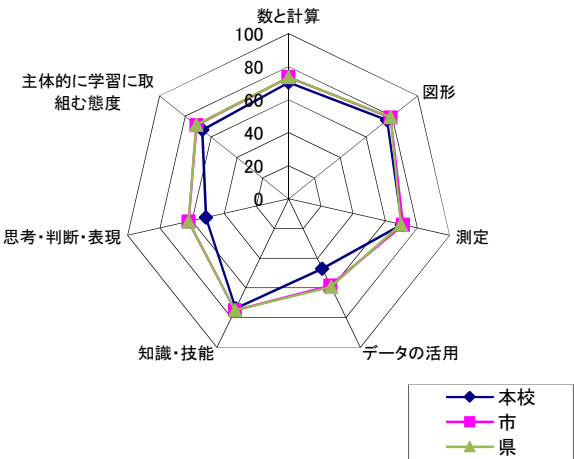
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	○3学年に配当されている漢字については、読み書きともに県の平均正答率と同等か上回っている。 ●「ローマ字で表記されたものを正しく読む」設問の正答率が県の平均正答率を約11ポイント下回っており、アルファベットやローマ字が苦手な児童が多い。	・新出漢字に加えて、既習漢字は文章の中で積極的に使い、熟語としても覚えるように指導していく。 ・ローマ字は、授業での指導時間が少ないので、折にふれて授業で取り上げたり、習熟のために自主学習で復習したりするようにする。 ・Aドリルを朝の学習や授業、家庭学習等で活用する。
情報の扱い方に関する事項	○「情報と情報との関係について理解し、中心となる語や文を見付けて要約する」設問の正答率が県の平均正答率を約4ポイント上回っている。 ●国語辞典の使い方についての設問の正答率が約2ポイント、「情報と情報との関係について理解し、考えとそれを支える理由との関係を明確にして書く」設問の正答率が県の平均正答率を約6ポイント下回っている。	・国語辞典の使い方を再度指導し、分からない熟語の意味などを国語辞典を使って調べることで、国語辞典を使う意義を学べるようにする。 ・文章を読むときに、文章の中で必要な情報を見付け、それを基に自分の考えや理由を書けるように指導していく。
我が国の言語文化に関する事項	●漢字のへんやつくりについての設問の正答率が県の平均正答率を約1ポイント下回っている。	・漢字を新しく習うときに、漢字を書けたり読めたりするだけでなく、へんやつくりも適宜指導し、理解の定着を図る。
話すこと・聞くこと	○領域全体の平均正答率は、県の平均正答率よりも約3ポイント上回っている。 ○「話の中心を明確にするための話し手の工夫を捉える」設問の正答率が約8ポイント、「相手に伝わるように自分の考えを理由を挙げながら話す」設問の正答率が約10ポイント県の平均正答率を上回っている。 ●「話し手が伝えたいことの中心を捉える」設問の正答率が県の平均正答率を約8ポイント下回っている。	・話を聞くときに、ただ漫然と聞くのではなく、相手が何を言いたいのか推測して聞いたり、話の中心を意識して聞いたりすることが大切だということを再度指導する。
書くこと	○「自分の考えとそれを支える理由を明確にして文章を書く」設問の正答率が県の平均正答率を約1ポイント上回っている。 ●作文の設問では、無回答が約19%と他の設問よりも多い。 ●「段落の役割について理解し、2段階構成で文章を書く」設問の正答率が県の正答率を約21ポイント下回っている。	・文章を書くことに慣れるため、自主学習などで日記を書くよう指導する。 ・自分の考えや根拠を示した文章が書けるように、国語や社会などの教科で練習をしていく。 ・文章の書き方(2段落構成など)を、繰り返し指導する。
読むこと	○領域全体の平均正答率は、県の正答率よりも約2ポイント上回っている。 ○「登場人物の気持ちについて叙述を基に捉える」設問が約6ポイント、「場面の様子について叙述を基に捉える」設問が約9ポイント県の正答率を上回っており、登場人物の気持ちや場面の様子から物語の内容を読み取ることができている。 ●「叙述を基に段落の内容を捉える」設問の正答率が県の正答率を約13ポイント下回っている。	・家庭と連携をしながら、引き続き、読書、音読を励行していく。 ・幅広い読書習慣を身に付け、様々な文章に慣れ親しむように指導する。 ・物語文や説明文を読むときに、意味段落や形式段落を意識し、文章の内容の理解に繋げていけるように指導していく。

宇都宮市立細谷小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	70.4	73.5	73.6
	図形	76.3	79.0	79.1
	測定	70.4	71.1	69.8
	データの活用	47.0	58.4	59.2
観点	知識・技能	73.8	75.0	75.0
	思考・判断・表現	51.3	62.1	62.1
	主体的に学習に取り組む態度	66.9	71.4	71.6



★指導の工夫と改善

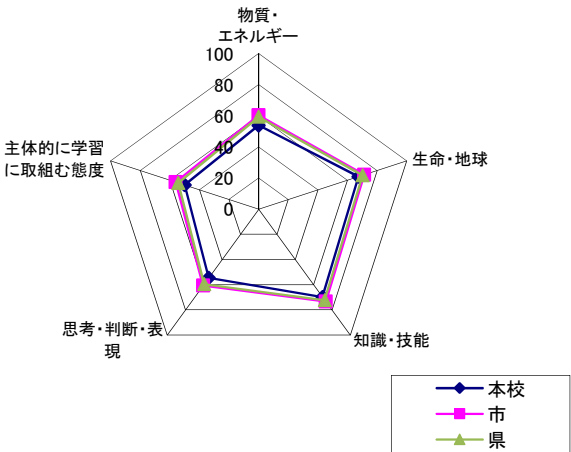
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○2けた×2けたの計算の正答率が79.5%で県の平均正答率よりも約10ポイント上回っている。 ○文章問題を解くための除法の式を選択する設問の正答率が89.0%で県の平均正答率を約10ポイント上回っている。 ●領域全体の正答率が県や市の平均正答率より約3ポイント下回っている。特に、整数－小数第一位の計算の正答率が41.1%で、県の平均正答率よりも約13ポイント下回っている。	・繰り下がりのあるひき算のやり方を復習し、問題数をこなすことで、習熟を図る。 ・朝の学習の時間でドリルを活用したり、宿題で計算プリントを活用したりして、基礎基本の定着を図る。 ・Aドリルを朝の学習や授業、家庭学習等で活用する。
図形	○円の半径を求める設問の正答率が78.1%で県の平均正答率よりも約2ポイント上回っている。 ●領域全体の正答率が県や市の平均正答率より約3ポイント下回っている。特に、球の半径から、球が1つ入った箱の辺の長さを求める設問の正答率が65.8%で県の平均正答率よりも約7ポイント下回っている。	・円や球についての用語の復習や、基礎的な知識を応用して解くような問題に慣れさせるようにする。 ・三角形の作図についても正確にできるようにくり返し指導していく。
測定	○道のりを求める設問の正答率が95.9%で県の平均正答率よりも8ポイント上回っている。 ●領域全体の正答率が県の平均正答率よりやや上回ったが、市の平均正答率よりはやや下回っている。特に、単位の前にkがつくと、もとの単位の1000倍になることを選択する設問の正答率が47.9%で県の平均正答率よりも約7ポイント下回っている。	・1km＝1000m, 1kg＝1000gのようなメートル法の仕組みを単位の意味から理解させたり、生活の中から問題を見出し問題を作ったりして、児童の学習意欲を高める。 ・1分＝60秒を使った問題や時刻や時間を求める問題を折に触れて復習する。
データの活用	●領域全体の正答率が県や市の平均正答率より約12ポイント下回っている。グラフを読み取る設問が3問あったが、3問とも県の平均正答率よりも下回っている。特に、複数の棒グラフを組み合わせたグラフを正しく読み取る設問の正答率が43.8%で県の平均正答率よりも約13ポイント下回っている。	・棒グラフの1めもりの大きさに気を付けながら数を読み取ったり、目的に応じて棒を組み合わせたグラフを読んだり、かいたりできるようにするために算数はもとより他教科においても、実際にグラフをグラフを読んだりかいたりする活動を取り入れていく。

宇都宮市立細谷小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	53.8	60.2	59.2
	生命・地球	67.5	71.3	70.3
観点	知識・技能	69.8	73.4	72.3
	思考・判断・表現	54.5	60.6	59.6
	主体的に学習に取り組む態度	49.9	55.9	54.2



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	○風の強さと車の動く距離の関係を実験の結果から推測する設問の正答率は89.0%で、県の平均正答率を1ポイント上回っている。 ○電気を通す物と通さない物についての設問の正答率は89.0%で、県の平均正答率と同程度である。 ●磁石につく物とつかない物についての設問の平均正答率は35.6%で、県の平均正答率よりも約19ポイント下回っている。 ●ソーラークッカーで料理ができる理由を説明する設問の正答率は32.9%で、県の平均正答率よりも約11ポイント下回っている。	・実験を行う単元は児童の興味関心が高く、正答率も悪くないため、今後もしっかりと準備し、丁寧に実験に取り組ませていく。 ・「電気を通す物と通さない物」の正答率が高い反面、「磁石につく物とつかない物」の正答率は低いことから、この2つの区別がついていないことが考えられる。もう一度しっかりと復習する。 ・実験を行ったものに関して、覚えているが実験の結果を利用し、同じような事象を予想、推測することには、苦手意識があるため、実験では考察に時間をかけて取り組めるようにする。
生命・地球	○ホウセンカとヒマワリの子葉についての設問の正答率は86.3%で、県の平均正答率を約5ポイント上回っている。 ○モンシロチョウのさなぎのようすについての設問の正答率は89.0%で、県の平均正答率を約1ポイント上回っている。 ●太陽の動き方から、午後3時の影の位置を推測する設問の正答率は38.4%で、県の平均正答率と同程度であるが理解が不十分である。 ●ホウセンカがよく成長した期間をグラフから読み取り、記録カードと結びつける設問の正答率は65.8%で、県の平均正答率よりも9ポイント下回っている。	・「物質・エネルギー」と比べてみると、全体的に正答率は高かった。しかし、県の平均正答率と比べると、同程度か下回る箇所も多かったため、今後も植物や自然の観察を行っていくためのポイントを意識させて、学習に取り組ませる。 ・「物質・エネルギー」と同様、観察した結果から予想したり、推測したりすることには、苦手意識があると考えられる。観察をするだけでなく、考察に時間をかけて取り組めるようにする。

宇都宮市立細谷小学校 第4学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で、学校の宿題をしている」の肯定割合は97.3%で、市や県の平均を上回っており、家庭学習の習慣は身に付いているといえる。

○「家で、学校の授業の予習をしている」の肯定割合は60.2%で、市や県の平均を上回っており、授業の見通しをもって学習しようとしている。予習→授業→復習のサイクルを身に付けさせ、基礎基本の定着を図っていききたい。

○「学校の宿題は、自分のためになっている」の肯定割合は97.2%と高い割合となっており、学習の成果を児童自身が感じていることが分かる。

○「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している」の肯定割合は75.3%で、市や県の平均を上回った。今後も意見を交流させる場を授業の中で意図的に設けていき、話し合い等、人との関わりの中で、考えを深めていけるようにする。

○「授業で分からないことがあると、先生に聞くことができる」と答えた児童は約80%で、市や県の平均を5ポイント以上上回っている。安心して学習できる環境づくりや児童と教師との信頼関係をこれからも大切にしていこう。

●「家で、自分で計画を立てて勉強している」の肯定割合は61.7%と低く、市の平均を5ポイント以上下回っている。宿題以外の自主学習としての勉強の仕方を指導しているが、さらに指導していく。

●1日当たりの読書量について、「全く読書をしない」と答えた児童は31.5%で、1か月の読書量についても、「1冊も読まない」児童は13.7%であった。図書室の利用を推進し、朝の読書の時間を充実させるなどで、本に親しみをもてるようにする。

●「本やインターネットなどを利用して、勉強に関する情報を得ている」に対して、「いいえ」「どちらかといえば、いいえ」と答えた児童は60%を超えている。学校図書や一人一台端末を活用し、調べ学習を充実させていく。

●「授業を集中して受けている」に対して、「いいえ」「どちらかといえば、いいえ」と答えた児童の割合は17.8%であったが、市や県の平均よりも5ポイント以上上回っている。児童の学習意欲を喚起するとともに、どの子も熱中できる授業づくりを行っていく必要がある。

●「自分は勉強がよくできる方だと思う」の肯定割合が42.4%、「自分はクラスの人の役に立っていると思う」の肯定割合は46.6%と低かった。本校の学校課題が、「自己有用感を高める授業づくり」でもあるので、あらゆる場面で、認め・励ます指導を行い、自己肯定感と自己有用感を高めていく。

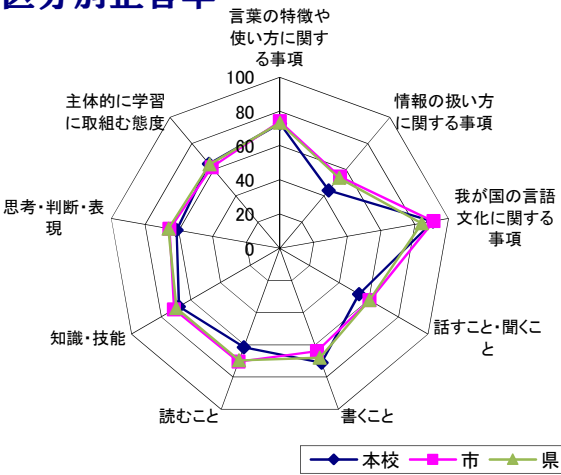
●「早寝、早起きを心がけている」に対して、「いいえ」「どちらかといえば、いいえ」と答えた児童は34.2%、平日に3時間以上テレビゲーム(携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む)をする児童は38.3%と、どちらも市や県の平均を10ポイント以上上回っている。家庭と協力しながら、よりよい生活習慣を身に付けさせていきたい。

●「だれに対しても、思いやりの心をもって接している」の肯定割合は80%を超えているが、市や県の平均を5ポイント以上下回っている。道徳の時間を中心に、人の気持ちについて考える活動を通して、相手の気持ちを考え、人に優しく接しようとする心情を今後も育てていく。

宇都宮市立細谷小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	73.0	74.2	73.3
	情報の扱い方にに関する事項	44.3	54.7	53.8
	我が国の言語文化にに関する事項	90.8	91.2	84.2
	話すこと・聞くこと	53.4	60.6	60.4
	書くこと	71.1	63.8	68.0
	読むこと	61.4	70.4	69.6
観点	知識・技能	68.1	71.3	69.9
	思考・判断・表現	61.3	65.4	66.1
	主体的に学習に取り組む態度	64.5	61.9	64.0



★指導の工夫と改善

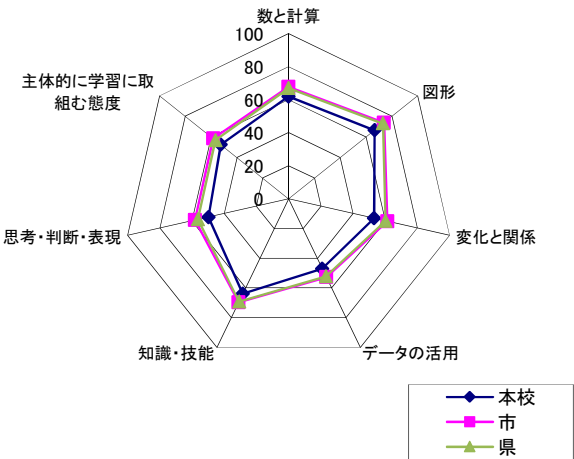
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	○4学年に配当されているの漢字の読みの正答率は90%を超えており、県の正答率と同等、もしくは上回っている。 ●連用修飾語の理解についての設問の正答率は県の平均正答率と同等であるが、約40%であった。	・漢字の読み、書きともに、ドリルやプリント、自主学習などでさらなる定着を図る。 ・AIドリルを朝の学習や授業、家庭学習等で活用する。
情報の扱い方にに関する事項	●情報と情報の関係について理解し、段落相互の関係を捉えたり、理由や事例を挙げながら話す設問の正答率は約30%で、県の平均正答率から約12ポイント下回っている。	・説明的文章において、文章の中から必要な情報を見つけて文章を要約したり、それを基に自分の考えや理由を書いたりする活動を取り入れる。
我が国の言語文化にに関する事項	○ことわざの意味を知り、正しく使うことができるかを問う設問の正答率は90%を超え、県の平均正答率よりも約7ポイント高い。	・幅広い読書習慣を身に付けさせ、より言語についての関心を高めていけるように指導する。
話すこと・聞くこと	○話し手が伝えたいことの中心を捉えることができるかを問う設問では、正答率は80%を超えた。 ●話の中心を明確にするための話し手の工夫を捉える設問の正答率は32.9%で、県の平均正答率よりも20ポイント以上下回っている。	・話を聞くときには、漠然と聞くのではなく、相手が何をどう伝えようとしているのかを推察して聞くよう、指導を続ける。
書くこと	○指定された長さで文章を書く設問の正答率は80.3%で、県の平均正答率を12ポイント上回っている。 ○段落の役割を理解して、二段落構成で文章を書く設問の正答率は63.2%で、県の平均正答率を約1ポイント上回っている。 ●自分の考えとそれを支える理由を明確にして文章を書くことについての設問の正答率は63.2%で、県の平均正答率を6ポイント下回っている。	・必要な言葉や文を使って、何を伝えるのかが明確になる文章が書けるように、授業を中心に書く訓練をしていく。その際、文型の例を提示するなど方法を工夫して、必要な言葉が抜けないように書く指導をしていく。
読むこと	○物語の読み取りはできており、登場人物の気持ちを叙述を基に捉えることができる児童は、県の平均正答率は下回るものの80%を超えた。 ●説明文の読み取りが苦手である。特に情報と情報の関係について理解し、段落相互の関係を捉える問題の正答率は30%に届かなかった。	・読書の推奨により、読書に親しんでいる効果が表れていると思われる。自分の好きなジャンルの本だけでなく、他のジャンルや読み応えのある本も意識的に読むよう促していく。 ・説明的文章の読み取りの授業では、中心となる文を見つけたり、要約したりする活動を取り入れ、内容の理解に努めていく。

宇都宮市立細谷小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	62.0	67.8	67.0
	図形	66.6	73.9	73.1
	変化と関係	53.1	61.4	60.2
	データの活用	47.0	52.7	52.1
観点	知識・技能	63.9	69.7	69.2
	思考・判断・表現	49.8	58.1	56.3
	主体的に学習に取り組む態度	52.6	58.5	56.7



★指導の工夫と改善

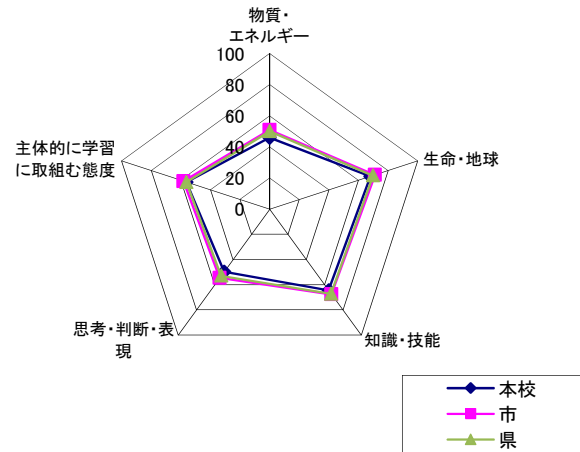
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○小数のしくみについて選択する設問の正答率が96.1%で県の平均正答率よりも2ポイント上回っている。また、小数第二位÷整数の計算の正答率が67.1%で県の平均正答率を約1ポイント上回っている。 ●領域全体の正答率が県や市の平均正答率より約5ポイント下回っている。特に、概数に対応する数の範囲を選択する設問の正答率が38.2%で県の平均正答率よりも約15ポイント下回っている。以下と未満の違いが理解できていなかったと推察される。	・大きな数や概数についての理解が不十分であるので、朝の学習や宿題等で復習する。 ・朝の学習の時間でドリルを活用したり、宿題で計算プリントを活用したりするなどして、積極的に基礎基本の定着を図っていく。 ・Aドリルを朝の学習や授業、家庭学習等で活用する。
図形	○四角形の辺の長さの性質を理解しているかどうかの設問の正答率が73.7%で県の平均正答率よりも約3ポイント上回っている。 ●領域全体の正答率が県や市の平均正答率より約7ポイント下回っている。特に、複合図形の面積を求める式を選択する設問の正答率が65.8%で県の平均正答率よりも約15ポイント下回っている。	・図形にたくさん触れたり、面積の大きさを視覚的、感覚的に分かるようにしたりして、図形をイメージしやすいものにしていく。 ・身近にある物がどのくらいの面積なのかという量感については、重点的に指導する。 ・友達と課題の解き方を話し合ったり、説明し合ったりする活動を多く取り入れ、言葉で表現できるようにしていく。
変化と関係	○ともなって変わる2つの数量の一方の値から、もう一方の値を求める設問の正答率が85.5%で県の平均正答率とほぼ同じだった。 ●領域全体の正答率が県や市の平均正答率より約7ポイント以上下回っている。特に、ともなって変わる2つの数量の関係を式に表す設問の正答率が25.0%であり、県の平均正答率よりも約12ポイント下回っている。	・2つの数量の関係を式に表すために、図や表を使ってわかりやすくする作業を授業に取り入れていく。 ・数量の関係を、基準量と比較量から求めた割合を使って説明する活動を授業に取り入れていく。その際、数直線が理解の助けとなることを再認識させ、積極的に活用できるようにする。
データの活用	○二次元表を読み取る設問の正答率は47.4%で、県の平均正答率とほぼ同じだった。 ●領域全体の正答率が県や市の平均正答率より約5ポイント下回っている。特に、折れ線グラフを読み取る設問の正答率が64.5%で県の平均正答率よりも約10ポイント下回っている。	・児童にとって身近な生活と関連付けた内容を取り上げたり、他教科とも関連させたりして、表やグラフを使って考えさせる。 ・2つの折れ線グラフや折れ線グラフと棒グラフを組み合わせたグラフを読み取り、それをもとに理由を説明する活動等を授業に取り入れていく。

宇都宮市立細谷小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	46.0	50.8	50.0
	生命・地球	68.0	71.1	69.8
観点	知識・技能	64.5	67.6	67.2
	思考・判断・表現	49.7	54.5	52.9
	主体的に学習に取り組む態度	56.3	58.1	56.2



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	○乾電池のつなぎ方による検流計の針の振れ方を推測する設問の正答率が55.3%で、県の平均正答率を10ポイント上回っている。 ●容器に水を入れたまま凍らせると容器が壊れることがある理由を、水の性質をもとに説明する設問の正答率が42.1%で、県の平均正答率を約8ポイント下回っている。他の設問でも、水の性質について苦手な傾向が見られた。 ●「物の体積と力」の「予想が正しいと推測した場合に得られる結果を推測する」設問の正答率は19.7%で、県の平均正答率を13ポイント下回っている。他の設問でも、物の体積について苦手な傾向も見られた。	・実験を行う単元は児童の興味関心が高く、正答率も悪くないため、今後もしっかりと準備し、丁寧に実験に取り組ませていく。 ・水のすがたについての基本的な知識をしっかりと復習する。 ・実験を行ったものに関して、覚えているが実験の結果を利用し、同じような事象を予想、推測することには、苦手意識があるため、実験では考察に時間をかけて取り組めるようにする。
生命・地球	○オオカマキリの季節ごとのようすについての設問の正答率は73.7%で、県の平均正答率を約15ポイント上回っている。「植物の1年間の成長」のすべての設問においても、県平均をわずかに上回っており、動植物の1年間のようすへの理解度は高い結果となった。 ●腕を伸ばしているときの筋肉のようすについての設問の正答率は53.9%で、県の平均正答率を約13ポイント下回っている。 ●「水は高い場所から低い場所へと流れていく」ことを問う設問の正答率が59.2%で、県の平均正答率を約7ポイント下回っている。	・教材園や飼育箱などの学習環境を整えることにより、日常の様々な自然現象を科学的な目で見ることができるようになっていたり、実感を伴った理解を図ったりすることを心がける。 ・デジタル教科書や動画の視聴などを通して、実際に経験できない実験や観察の疑似体験を多くさせることによって知識の定着を図る。 ・実験や観察の後に考察を検討し合う場を設け、科学的な視点で根拠を示しながら論理的な説明をし合う活動を多く取り入れる。

宇都宮市立細谷小学校 第5学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で学校の宿題をしている」の肯定割合は95.1%と高かった。また、「家で、学校やじゅくの決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」の肯定割合は60.5%で、県の肯定割合58.2%を上回った。家庭学習や自主学習の習慣は身に付いてきていると言えるが、引き続き家庭と連携し、家庭学習の習慣化に取り組む。

○「授業であつかうノートには学習の目標(めあて・ねらい)とまとめを書いている」では、肯定割合が87.7%と高かった。学習のめあて、まとめ、ふり返りを書くことは徹底されている。お手本のノートを提示するなど、更にノートの使い方を身に付けていく指導を続けていく。

○「先生は学習のことについてほめてくれる」の肯定割合は、86.4%と高かった。「授業を集中して受けている」の肯定割合も82.7%と高いことから、日々の授業を前向きに取り組もうとする態度が身に付いてきている。今後も一人一人のよさを認め、励ます指導を心がける。

●「学校の授業時間以外に、ふだん(月～金曜日)、1日当たりどのくらいの時間、読書を読みますか」では、全くしないが33.3%、10分より少ないが19.8%と合わせて53.1%と半数以上が本を読む習慣が身に付いていないことが分かる。司書と連携し、おすすめの本を提示したり、朝の読書タイムや家読を通して読書の楽しさを伝えたりするような指導をしていく。

●「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことは難しい」では、肯定割合が74.1%で、書くことについて苦手意識をもっている児童が多い。授業のふり返りで自分の考えを書けるように指導したり、テーマを決めた作文の宿題で、文章の構成や書き方のポイントを教えたりしながら自分の考えを文章で表現できるように継続して指導していく。

●「ふだん(月～金)1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム(コンピューターゲーム、けい帯式のゲーム、けい帯電話やスマートフォンを使ったゲームもふくむ)をしますか。」では、1時間以上する児童の割合が72.8%と高い。そのうち22.2%の児童は4時間以上ゲームをしている。家庭と連携しながらルール作りやゲーム依存にならないような注意喚起を行ったり、市の取り組みである「ノースマホデー」を活用して啓発活動をしていきたい。

宇都宮市立細谷小学校 (第4・5学年共通) 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
○児童の基礎・基本の定着を図り、できた喜びが学ぶ意欲へとつながる指導の工夫。	○漢字・計算オリンピックの年2回の実施により、積み重ねが結果に結びつく喜びを味わわせ、自信を付けさせる。	「学習に対して、自分から進んで取り組んでいる」と答えている児童は、4年生が67.1%、5年生が72.9%であるが、児童の日々の様子を見ると、学ぶ姿勢、意欲が向上していることが感じ取れる。今後も、分かる・できる授業作りを意識して、板書や発問を工夫していく。
○互いに認め、励まし合い、学び合う学習の場の設定と学習形態の工夫。	○「学習の約束」を定着させ、友達の話をよく聞き、落ち着いて学習する環境を整える。 ○感染症対策をしながら、可能な限りペアやグループ学習で学び合いの場を確保する。	「クラスの友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」と答えている児童は、4年生が65.7%、5年生が63%と半数を超えている。今後も意見を交流させる場を授業の中で意図的に設けていく。
○宿題や自主学習などの家庭学習の習慣化を図る。	○家庭学習の手引きを配付し、家庭と協力して自主学習を全校で推進する。 ○参考となる児童の自主学習ノートをコピーして掲示し、自主学習の進め方について保護者にも知らせる。	「家で、学校の宿題をしている」と答えている児童は、4年生が97.3%、5年生が95.1%である。また、「家で、宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」と答えた児童は、4年生が45.2%、5年生が60.5%である。個人差はあるが、家庭学習の習慣が身に付いてきているので、これからも意欲が続くような働きかけをしていく。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
・自分の考えを文章や言葉、式に表すことに苦手意識をもつ児童が多いことが分かる。	・自分の考えや意見を持ち、文章や言葉、式で表し、発表する機会を増やすことで、自らの考えのよさに気づき、自信をもつことができる指導の工夫	・授業の振り返り等で自分の意見や感想を文章で表し、それを発表する場を取り入れる。 ・自主学習の中に一言日記や一行感想文などを取り入れたり、文型の例を提示するなど方法を工夫して、文を書くことへの抵抗感を減らすとともに、要点をまとめた文章が書けるように繰り返し指導する。
・算数の定着度に大きな差が見られる。	・習熟度別学習の充実	・習熟度別学習においては、上位の児童には活用力を身に着ける問題に取り組ませたり、下位の児童にはレディネスの補充を行ったりしながら学習を進めていく。